

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2274101464		
法人名	株式会社小龍閣		
事業所名	グループホームモアライフ1番町		
所在地 (電話番号)	静岡県葵区一番町30 (電話) 054-653-0832		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡県葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成20年11月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	11 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	理美容代、オムツ代等の実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 11月 14日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83.4 歳	最低	63 歳
		最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	静岡厚生病院、北村医院、塚本医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通の便が良い市街地に開設され、近くには公園、学校、商店街、市役所、病院等がある。入居者がゆったりと自分のペースで生活できるように生活空間に様々な配慮が行われている。職員は、認知症高齢者に関する専門的な知識や技術を取得しており、利用者の尊厳を傷つけないよう言葉かけを行い、利用者との信頼関係を築くことに力を入れている。改善事項については、職員は課題を認識し、一つひとつ改善に向けて取り組んでいる。また、地域の社会資源である施設としての自覚を持ち、住民に気軽に来所してもらう等、交流を推進している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員は、利用者がその人らしい生活をホームで送れるよう、地域との交流を積極的に取り入れていく意識が高まっている。また、介護計画の見直しやケース会議等が定期的に行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義と役割を職員全体で確認した上での取り組みがみられた。また、理念についても改めて見つめ直した。特に、地域との関わりでは、これまで実施してきたことの意義を実感しており、更なる改善への取り組みが期待できる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議の開催実績はないが、地域包括支援センターへの相談や定期的に開催している事業所の会議を見学したり、地域関係者の協力や理解が得られるように働きかけている。地域からの要望に積極的に応じる体制を準備し、地域と利用者がより良い関係になるよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や苦情はないが、家族アンケート結果からも家族との関係が希薄な利用者が多い。今後、家族会の結成も計画しており、家族から意見が出たり、協力が得られる関係づくりへの取り組みを期待する。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	安倍川の花火を見る会や、保育園児を招いてクリスマス会を計画するなど、少しずつ地域との交流が行われている。開設した当初は、日々の介護業務に追われて地域との連携を充実させることは困難だったが、現在は地域の方と花壇作りや野菜作りを一緒に行っており、新たな地域との交流が生まれている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しい我が家の提供」「尊厳のある対応」「明るく共に支えあい、いつまでも寄り添う」などの理念に基づき、より良いケアの実現と地域社会への貢献を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員や利用者が確認できるよう、ホーム内に理念を掲示している。職員は朝の申し送りや月1回の会議の中で理念について話し合い、共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に散歩や買い物等に出かける際、近隣の人達と挨拶を交わしている。施設入り口付近に畑を作り、利用者や近所とのふれあいに繋がるように活用している。また、運動会や自治会に参加したり、近隣からの介護相談を受けている。	○	ごみ出し活動等の参加を通して、地域との交流が深まることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票はホーム長と職員で検討しながら作成した。職員は外部評価を実施する意義を十分理解し、改善に向けて取り組む意欲が感じられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催実績はないが、城西地域包括支援センターへ相談したり、他の事業所の会議に出席して、どのような内容で進めていくか検討している。	○	地域包括支援センターとの連携や他グループホームとの情報交換できる体制を活かすとともに、利用者や家族の声を反映しての開催を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	静岡市葵区の生活福祉課・介護保険課と地域の介護ニーズ、事業所の実情、サービスの取り組み等、報告や相談を行っている。また、介護支援専門員連絡会や市内でのホーム連絡会等へ参加し、情報交換や交流を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の体調不良時は、家族に随時連絡している。面会時もケアプランや経過報告の説明を行い、積極的に今後の方針に関して相談し、一連の流れを経過記録に記載している。また、広報誌を発行して家族へ送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が苦情を言いやすい関係づくりに努め、苦情が出た際は、随時対応している。今後、更に家族の意見や苦情等をサービスに反映させるため、家族会の立ち上げを検討している。また、利用者と家族と一緒に外出できる行事を企画している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職が利用者へマイナスの影響がないようにコミュニケーションを図っている。また、離職による職員の確保に向け、福利厚生の実施に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、研修参加後、報告書を作成し、ミーティングで活用している。管理者もホーム内研修会に出席している。また、資格取得を支援していく体制がある。認知症の進行や身体機能が低下している利用者が多くなっているため、対応できるよう研修させていきたいと考えている。	○	今後、それぞれの職員に応じた研修計画を作成し、取り組んでいくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社との交流の場で様々な問題を提示し、勉強会を行っている。また、今後は地域包括支援センターエリア内の定期的な研修・連絡会(学習会)へ参加し、同業者との交流を深めていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みや相談があった場合は、自宅への訪問や事業所の見学を促している。面談、見学、体験利用等、気軽に活用してもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なことについて、生活歴や入居中の様子から理解するように努め、職員自身の学びの場としている。また、ホームの理念である「明るく共に支え合い、いつまでも寄り添う」を踏まえた支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを聞くことに心がけ、表情や行動の中から把握し、家族へ利用者の生活歴等を確認している。また、会議や申し送り等で個別ケアが共有ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の要望やその人らしく生活できることを踏まえた介護計画を作成し、家族へ説明して同意を得ている。また、利用者とのコミュニケーションの中から趣味や特技を理解し、計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミーティングの中で職員全員の意見を出し合い、見直しを行っている。また、3ヶ月に1回はケース会議を行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	○	生活保護の利用者が多く、家族の関わりが少ないケースが多い。今後も本人らしい生活の実現に向け、利用者のニーズに応じた、柔軟な介護計画の見直しを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物・通院への付き添いや送迎、散歩の同行など、外出支援を要望に応じて行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は1ヶ月に1度の定期的な往診の他に随時、希望に応じて受診や往診が受けられる。医院の看護師も認知症の支援について理解し、適切な対応を心がけている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで看取ったケースがあるが、現在、職員の経験・知識が不十分であり、明確な方針が決まっていない。	○	職員のターミナルケアに対するスキルアップを図るため、具体的な研修計画を立て、実行することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけない対応について、ミーティングで確認し合い、心がけている。また、個人情報の取り扱いには家族への了解を得るなど、細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の得手・不得手を見極め、個性を引き出し、日常生活が充実するよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながらメニューを考え、一緒に買い物をしている。食材を切ったり、後片付けをするなどの役割があり、一人ひとりの能力を活かしている。昼食は介助の方を含め、ほとんどの利用者が「おいしい」と完食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がる利用者も多いため、誘導方法を個別に工夫し、2日に1回のペースで支援している。また、スムーズな入浴を進め、日頃の信頼関係を気づくことを心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	市街地にあるホームであるが、玄関先のわずかなスペースを利用して野菜を栽培している。農業の経験がある利用者が水やりを担当して、他の方々も成長を楽しむにしている。また、菜園を通じて近所とのコミュニケーションを図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの裏に公園があり、天気の良い日には出かけて、近所のお年寄りや保育園児と交流している。体調や気分配慮し、少人数に分かれて散歩している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室は、鍵をかけておらず、利用者が自由に行動できるよう見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回防災訓練を行っている。非常階段を設けているが、職員はユニットが2階・3階であることや夜勤帯の対応に不安を感じている。現時点では近隣の協力体制は不十分である。	○	ホーム周辺は、住宅密集地で、火災の延焼も考えられるため、近隣の協力体制の構築を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、食べる量・水分量をチェックして健康状態を把握している。適正な体重を維持するため、利用者の了解を得て、食事の量を加減している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節が感じられる花を生けている。居室のネームプレートもデザインを工夫し、共有空間に親しみやすさを感じさせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド、整理ダンスを設置している。その他、利用者が使い慣れた物、好みの物を持ち込んでもらえるよう家族に働きかけている。		